

2026 年 10 月 26 日
NTT ドコモビジネス株式会社

京都市において自動運転バスの実証実験を開始

～令和 7 年度に続く第 2 弾として、路車協調・遠隔監視を検証し令和 10 年度の社会実装をめざす～

NTT ドコモビジネス株式会社(旧 NTT コミュニケーションズ株式会社、以下 NTT ドコモビジネス)は、代表機関として参画企業・団体とともに、京都市と自動運転バスの走行に関する実証実験(以下 本実証)を行います。本実証は、洛西ニュータウンエリアにおいて令和 8 年 11 月 1 日から令和 9 年 1 月 31 日までテスト走行を行い、令和 9 年 2 月 1 日から 14 日には市民試乗体験^{※1}を予定しています。市民の利便性向上や地域活性化につながる自動運転バスの導入に向けて、京都市とともに取り組みを推進します。

1. 背景と目的

京都市では、バス運転士の担い手不足への対応や交通事故の低減など、これまでの交通課題の抜本的な解決に加え、市民の利便性向上や地域活性化にもつながる自動運転バスの導入に向けた取り組みを進めています。

令和 7 年度の実証実験に続き、自動運転に適した道路環境などを総合的に検討した結果、自動運転レベル 4^{※2}の実装の可能性がある地域として選定した洛西ニュータウンエリアにおいて、テスト走行期間を拡大して実証実験を実施します。

2. 本実証の概要

洛西ニュータウンエリアにおいて、自動運転レベル 4 の認可取得に向けて、市バス車両を活用したレベル 2^{※3}の自動運転バス実証実験を行います。

実証場所	洛西ニュータウン周回 1 周約 6.9km／自動運転レベル 2 (洛西バスターミナル⇒(洛西ニュータウン周回)⇒洛西バスターミナル)
自動運転車両	使用車両：市バス車両 いすゞ自動車製「エルガミオ(中型ディーゼルバス)」 
テスト走行期間	令和 8 年 11 月 1 日～令和 9 年 1 月 31 日(予定) ※12 月 29 日～1 月 3 日を除く

- ・死角情報の伝達：洛西バスターミナルからの右折出庫時に、路側センサーを設置して車両へ死角情報を伝達し、安全かつ円滑な運行を検証
- ・遠隔監視：遠隔地から車内外の映像などをリアルタイムで確認する検証
- ・リスクシナリオ検証：自動運転レベル 4 の取得に向けて抽出したリスクシナリオについての検証など

4. 各社の役割

京都市	全体統括(実施主体)
京都市交通局	運行主体(実装後) 自動運転バス導入に係る支援
NTT ドコモビジネス株式会社	本業務の全体統括(代表機関) 実証／実装計画の策定 ネットワーク環境の調査・整備 契約事務処理
先進モビリティ株式会社	自動運転車両改造 自動運転システム開発(調律含む) 乗務員への車両操作トレーニング
一般社団法人システム科学研究所	アンケート調査(集計／分析) 交通／都市計画分析
VoyageBright 合同会社	実証／実装計画の策定支援
関西電力送配電株式会社	路車協調インフラの計画・実施
オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社	路車協調機器の提供 信号連携の調査・設計
NTT モビリティ株式会社	「NTT モビリティ 運行アシスト」を活用した遠隔監視システム 構築・運用 品質管理サポート
一般社団法人 Community Boost Consulting	ルート選定に向けた調査支援 実証／実装計画の策定支援
沖電気工業株式会社	路側センサー機器提供 路車協調システム構築・運用
株式会社かんでんエンジニアリング	路側センサー設置工事
同志社大学モビリティ研究センター	交通情報連携に関する指導 高度通信技術に関する指導

5. 今後の展開

本実証を通じて、実証ルートにおける自動運転レベル 4 の実装に向けた技術的な検証と課題の抽出を行います。京都市では、令和 9 年度にかけて許認可手続を進め、令和 10 年度の社会実装をめざします。

社会実装が実現すれば、市営交通として政令指定都市初の取り組みとなります。NTT ドコモビジネスは、京都市および参画各社・団体と連携し、京都市における地域交通の維持と発展に貢献していきます。

※1：市民試乗体験に関するお問い合わせ先は、京都市都市計画局歩くまち京都推進室(電話：075-222-3483)にお願いいたします。

※2：特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作のすべてを代替する状態。

※3：アクセル・ブレーキ操作およびハンドル操作の両方が、部分的に自動化された状態。

※4：路車協調技術とは、道路側(路側)に設置されたセンサーやカメラなどのインフラと、自動車(車)のシステムが通信で連携し、安全で円滑な自動運転や交通を実現するためのシステムです。